



ハロハロプロダクツ

ジュースパックなどを再利用して作られた、色鮮やかなフィリピン雑貨を販売しているのが「ハロハロプロダクツ」だ。今回は事業主の土居悠さんにお話をお聞きした。

Q 土居さんの経歴や、活動を始めるきっかけについて教えてください

1981年に千葉県に生まれて、小・中・高と千葉で育ちました。高校の時にアメリカに短期留学する機会があり多様な考え方に触れ、自分は日本のことをよく知らないし伝えることもできないと感じました。それで大学は日本文学科に行きました。卒業後は印刷会社で3年間広告営業をしましたが、仕事と生きることの価値観に疑問を持ち、仕事と生きることに対して海外の人はどういう考え方をしているのかなと思い、カナダのバンクーバーに1年間ワーキングホリデーで滞在しました。帰国後半年ほど新聞社で派遣社員をしていた時に『社会起業家に学べ!』（注1）という本を読んだことが、今の活動のきっかけになりました。それが2年前です。

社会起業という考え方を初めて知って、地域社会の抱える問題解決を目標に仕事を作り出せるということ、またみんなで目標や結果を分かち合えるということに大きなやりがいと価値を感じました。今まで「自分の望む未来」探しをしてきましたが、「みんなの望む未来」を形にするためなら、私もそれを一生の仕事にしたいと思えました。

やっている人の事例が色々書いてあり、自分と同じ年くらいか、もっと若い人が多く、それで自分にもできると思いました。

ただ社会貢献事業やボランティアなどはやったことがなかったので、社会問題や事業経営について知るにはまず現場に入らうと思う、色々調べてNGOのワークキャンプというのがフィリピンであるということを知って、そのキャンプに1週間行きました。

私がこの短いフィリピン滞中で何度も耳にした言葉、それは「仕事をしなくても仕事がない、学や技術はないけれど、子供の教育や生活のためのお金を自分の力で稼ぎたい」。ホームステイ先だった漁村の人々も援助を当てにしておらず、家族のために自分が働きお金を得る機会を欲していました。特にゴミ投棄場の人々はゴミの換金に代わる新たな生計手段を模索しており、まったくミシンを触ったこともない人々が市やNGOの支援を受けて、民間の裁縫団体を立ち上げていたんです。

そこで作っている、ジュースのパッケージをリサイクルして縫い合わせてできたバッグやポーチは、あまり良いものではなかったです。ワークキャンプに来た学生さんとかに、こういう人が作っているというのを見せて、売りつけているような印象でした。そんなに良いと思えないものを売るといふのは、「やっぱりこれはチャリティなのかな?」と思いましたが、つくる人々は新しく生計を支える仕事として裁縫を覚えたはずなのに、何か違うと。この製品の流通や品質を向上させることで、何か事業として形にできるのではないかと、思いました。それで始めたのです。

(注1) 『社会起業家に学べ!』 今 一生 アスキー新書 2008年初版 (こん いっしょ) 著



『ハロハロプロダクツ』の土居悠さん

Q 『ハロハロプロダクツ』の名前の由来を教えてください

名前は私が考えました。『ハロハロ』とは混ぜる、ミックスするという意味なんです。色んなジュースのパッケージがミックスされて出てくる雑貨なので、合っているかなと。呼びやすく、みんなに親しんでもらえるようなものにしたかったのです。

Q 製品の特徴を教えてください

かわいくて、ポップでカラフル、「これは何だろう?」と思わせる製品です。ただ、それだけではないものをブラスしたいと思いました。

それは「ものをつくる」というストーリーです。

この雑貨は、様々な事情から学や技術を身に付けられなかった人々が多く参加して作っています。日々の生活のために仕事を必要としているのはみんな同じなのです。私は、援助がする人とされる人という線を引くのに対し、仕事は人間らしく生きることや社会への参加になくはならないものと考えます。誰にも仕事の機会が開かれ、資質を向上させる環境があり、仕事への対等な評価を貨幣により得られる、そんな場所があれば良いですね。

ジュースパック雑貨作りは約10年前にフィリピンのある地域の市長が街のクリーン化と家庭の収入向上を目的としてはじめ、今や行政やボランティアなどによりフィリピン各地に広まったと聞いています。誰もが仕事により自立した人間らしい生活をスタートするきっかけとして広まっているのです。

また、この雑貨は作る人の生活を中心にした場で作られます。地域や人によって生活スタイルは様々。生産性を考えれば、工場のような場で生産ラインを設け、ひとりの人に同じ仕事の繰り返し作業を求めれば、早くたくさんのものでできるのかもしれませんが、しかし、みんなに守りたい家族との生活があり、小さい子供がいれば家の中でできる仕事をしたい人もいます。地域の家々が開けているからこそ、ミシンをかけるお母さんの家の、すぐ隣の家の屋根でジュースパックを乾かしているのを見ることができず。また地域によってはみんなで清潔に作業できるスペースを求めていることもあります。必ずしも工場を生産性を必要とせず、地域や人々にあった働き方の場を大切にしていきたいのです。

さらにこの雑貨の素材は、ジュースのパックなどの廃材です。ものを作るのに新しい資源を使うのではなく、今あるものをとことん使いきるといった考えからです。それがフィリピンの人の元々のスタイルですし、そういうのは大切だと思いました。

「かわいい」と思うだけでなく、そういった背景があるということを感じてもらえれば嬉しいですね。

Q どういう人に使ってもらいたいですか?

客層は30代や40代の国際関係に興味のある方が多いのですが、見た目にもポップでカジュアルに使えるので、もっと高校生や大学生など若い人も使ってくれれば良いと思います。

日本では、大きくて派手なバッグより、小物だったら持ちたいという人が多いです。そこで今は小物の開発に力を入れています。財布、ポーチ、キーホルダー、ストラップ、ブックカバーなど、バッグの

中に入れられるようなものです。

Q 活動を通じて、どういう人にどういことを伝えたいですか?

日本で生活する多くの人に、それこそ子供から大人まで広く知ってもらいたいです。この雑貨が「自分には関係ないや」、「仕方ないや」なんて思っていたことが以外に身近な問題だったと気付くきっかけになると良いな、と思うのです。

ひとつのことが世界に繋がっている。自分が「もの」を買うという行動は、その「もの」の作り手の生活に繋がっているということ。自分の普段のお買い物の世界の貧困や環境問題にどう繋がっているのかとか、そこまで考えが及んでくれると嬉しいですね。

Q 今後の目標を教えてください

何よりも継続が大事だと考えています。ジュースパック雑貨を永遠に作り続けていくという意味ではなく、今パートナーシップを結んでいる作り手の人たちが地域とずっと継続して一緒に生活の糧になる何かを探していきたいですね。ジュースのパッケージが無くなって、その人たちが続けられること、生活の糧になることをもつと見つけていきたいと思っています。フィリピンにこだわって始めた訳ではないので、世界各地の方々と私が日本人であることを生かして何ができたらいいますね。

それに今は一人でやっていて、自分だけでは視野が狭くなり、できることも限られるので仲間が欲しいと思っています。私が考えるより行動するタイプなので、立ち止まって考えてくれる人、この事業を外からしっかり見える人が良いですね。今後色々な人の意見を聞きながら継続していきたいと思っています。

ハロハロプロダクツの製品



上/フィリピンで捨てられているジュースパックを再利用して作られた雑貨たち。

右、右下/今、開発に力を入れているという小物類。

左下/丈夫でかわいいデザインのトートバック。

高校生や大学生などの若い人たちがこれらの製品を持ち歩き、それができあがるまでの背景を考える。それが土居さんの願うことのひとつだ。



ハロハロプロダクツの活動



左 / 環境系のイベント『アースガーデン』に出店する。土居さんは通る人に積極的に話しかけている。商品とそれが作られた背景、フィリピンについて丁寧に伝える。一人でも多くの人に知ってもらいたいという思いが込められている。

下1 / 毎年世界フェアトレード月間の5月に千葉ニュータウンで市民団体が中心となって開催するフェアトレードイベントにも企画参加。

下2 / 『西大島BUZZHOUSE』などでライブ活動をする吉川和之氏が、不定期でトークゲストなどに迎えてくれている。

多くのイベントでの展示・販売、高校や大学での講義など様々な活動を行っている。それと並行して、フィリピンの制作者たちの生活、製品の品質、流通の向上を常に考えている。

HP、イベント情報

『ハロハロプロダクツ』のホームページ

<http://www.halohaloproducts.com/>

NETSHOPでの直営販売

<http://shop.halohaloproducts.com/>

お問い合わせ

E-MAIL : halohalo@sweetkiss.jp

TEL : 0476-46-4302



2010年8月7日(土) 吉川和之氏ライブ「ドキュメンタリー...現場の声を聴く」

ハロハロプロダクツのショートトークあり

場所 : BUZZ HOUSE 地下鉄新宿線西大島駅

A1出口左道なりに徒歩29秒 3F

開場19:00開演20:00

DOOR (当日券) ¥1,000 + オーダー

2010年10月10日(日) 第35回雑居祭り

アジア・アフリカブースに出展

場所 : 羽根木公園(世田谷区)

小田急線梅ヶ丘駅徒歩5分、

京王井の頭線東松原駅徒歩7分

